

早瀧比咩神社通信

秋季大祭厳かに

お神輿を客殿まで

コロナ禍がやや治まりつつある秋たけなわの十月16・17日の両日、早瀧比咩神社で秋祭大祭が行われました。昨年からは神輿・ダンジリの巡行は自粛となり、寂しいお祭りでも伝統の伝承が心配される事態となっています。九月下旬刈り取られた刈縄用藁(わら)を天日干しのあと神社で受取り、拜殿で陰干しを行い、十月2日(土)には数名で藁の袴取り作業(岡山方言では「しようやく」)や「ない始め部品」作りを行い、十月3日(日)朝8時から役員総出で向拝の大しめ縄



お神輿入魂式

しながら、お昼前に予定全数を完成しました。龍岩用は長さ13m x 3本を三つ編みにして仕上げました。

十月16日(土)午前八時に役員全員集合し、刈縄の取付け、榊奉納の準備などを行いました。お神輿を保管場所から客殿に移動し、清掃後刈縄を取り付け、安置しました。午前10時から吉野宮司による秋祭の祭典は招待客も交え厳粛に行われ、神輿の入魂式も行いました。式典後祭典用天幕と提灯の取付けを忘れていた



新調した室内移動用心棒装着

十月10日(日)午前八時から氏子総出で幣殿・客殿・境内内外・参道・龍王宮や素戔嗚神社などの清掃作業を奉仕して頂きました。その後、各地区で道草刈り掃除や幟旗立てを行い、お祭り準備が整いました。お宮鳥居の幟旗は壮年部有志の人たちで建てました。

十月17日(日)午後三時から宮司と関係者による閉祭式と神輿出魂式があり、役員全員でお祭りの

十一月14日(日)には七五三祭(紐落とし)が行われました。本年は滝地区二家族四人の子ともさんが親御さんと一緒に祝福されました。このお祭りは言葉を理解し始める三歳頃から乳歯の生えかわりがある七歳頃までは、成長に伴って、病気になるやすい年齢であると考えられていたため、子供の健やかな成長をお祈りするための行事として儀式が行われます。七五三祭は、子供が無事に育っていることを神へ感謝を伝え、また、これからの成長を願う意味があります。現在は終戦後の状況から様変わりして子ども達

五〇年前に滝子ども会が出来た当時会員数は六十余名でした。

河津桜植樹

十一月21日お宮付近へ大木にならない河津桜苗木10本を植樹しました。当日は一般氏子さんのお手伝いがありました。来春以降に開花しお花見ができればと楽しみです。

あとがき

七五三祭で子ども時代を思い出しました。近所友達何人かと、学校からの帰途、通学路を外れ山道(木目く広岡く奥)を通り、あけびを取ったり、鴨川に入って魚とたわむらながら下校、帰宅後は鞆を家に放り込んで、三堀池、鐘鑄場、お宮、一の滝島池、ダムなどで、鮎釣りや水泳、野球などで遊んでいました。時には山村まで足を延ばしヤマモモを食べていました。一日中遊んで帰っても叱られることは無かったが、今思えば大変野性的で危険な遊びで過ごしました。当時の親は子供にかまう余裕はなく、日々の生活に追われていたのでしょう。(編集士)

七五三祭

片付けを行い、四時から約一時間反省会を行い六時ごろ閉扉解散しました。

神社のご祭神でもあり、智慧、財福、戦勝、子孫繁栄、芸能関係の神とされる。滝区長老にお聞きしたところ、千本桜を始めたのは篤志家が社を建立され、お祀りされていた。

この社は早瀧比咩神社の末社ではなく、しばらく放置されています。何年前には神社役員が刈縄を寄進されたこともありましたが、これからのようにお祀りするかどうか検討中です。日比港から由加神社に向かう東参道で島池遊歩道の出口に建っていた由加神社の石鳥居は平成の始め頃崩落し、その後少年自然の家

は少子傾向で滝地区でも人数はかなり減少しています。地区全体で少ない子どもたちを温かい目で見守りたいものです。約



七五三お祝いの二家族

特集 島池弁財天

花見を楽しめる島池の堤塘へ向かう小道の左手に祀られている社。市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)について情報を集めました。お花見の季節には、千本桜と云われる島池堤塘から法面にかけての桜の景色は素晴らしいです。昭和中期その景観を作り始められたのが、宇野地区の篤志家です。花見時期には彼の子孫に当たる人たちが訪れて偉業を懐かしんでおられたこともありま



弁財天全景



市杵島姫命幟

ご祭神で、天照大神あまてらすおおみかみと須佐之男命(すさのおのみこと)が誓約(うけい)をした際、須佐之男命の剣から生まれた三女神のなかの一神で、広島県宮島、厳島

を懐かしんでおられたこともありま